

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	今後も一人ひとりの入居者の方々のニーズに合うようなサービスが行えるよう支援していく。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	入居者の方が、このグループホームを通じて、地域の一員として、その人らしい生活が送れるよう、確実に理念を共有、理解し日々取り組んでいく。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	家族、地域の方々にも理解していただいている。地域の行事等への参加、できるだけ天候、気候のいい日には、外出する機会を設け地域の方々の交流を図れるよう支援している。また、気軽に訪問していただいております。今後も地域交流、訪問していただける環境づくりを行い、密に信頼関係、コミュニケーションを図れるよう取り組んでいく。
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	地域の中のグループホームとして、今後もオープンに日常生活のお付き合いができるよう支援していく。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	入居者の方々は、地域の一員であり、地域行事への参加をより行っていきたいと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	当ホームに隣接して、複合施設(デイサービス、居宅介護支援事業所、訪問介護、高齢者専用賃貸住宅)があり、地域の方々(外部)の声も多く聞ける体制づくりを行うようにしており、また、医療連携している折野胃腸科内科との連携を密に図り、地域の方々が安心して地域で生活が送れるよう相談にも応じている。	○	地域の方々が安心して、地域の中で生活が送れるよう、福祉、医療が連携を図り支援していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価、行政の指導、また、地域の方々の声を聞き、それぞれの意義を理解し、よりよいGHが構築できるよう努力している。	○	いろいろな評価、指導等を参考に、より良いGHが構築できるよう今後も行っていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては、GHの近況報告、または、取り組みの発表の場として活用させていただいている。地域、利用者、家族、行政の方々が運営推進会議にて、いろいろな意見が聞けている。	○	運営推進会議だけでなく、いろいろな取り組みを行い、地域の方々が安心して生活が送れるよう、総合的に取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に何度か行政へ訪問したり、電話にて相談させていただいたりしている。GH側の提案、お願い等も行っている。	○	市町村との連携を密に図り、今以上に各種資源を活用し、また、新しい資源の提案もできるよう行い、サービス向上につなげていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	詳しいことについては、職員研修等では行えていないが、運営推進会議等では話しをしている。	○	職員の学ぶ機会をつくり、必要な方には、支援できるよう取り組んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	GHにおいて、虐待が見過ごされることがないように、日頃から職員間のコミュニケーションを密に図り防止に努めている。認知症デイサービスも開所したため、訪問時には、家族ともコミュニケーションを図り虐待等がおきないように、家族の方々ともコミュニケーションを密に図るようにしている。	○	職員間の徹底を図るとともに、研修等勉強する機会を設けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結ぶときには、事前に十分な説明の時間を設け、重要事項説明書、契約書、当ホームの必要な書類を用いて説明している。(当ホームの特徴、取り組み等も密に説明している。)</p>	○	<p>契約時には、できる限り2名以上で対応し、十分な説明が行えているか、自己評価も行っていきたい。(マニュアルは作成している。)</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者の方から、意見・苦情があった場合には、その意見に傾聴し解決していくよう努めている。認知症の方の特性を見極め、判断を的確にし、入居者の方々が納得し、精神状態が安定して生活が送れるよう支援している。苦情、不満に関しては、職員から管理者へ伝えるように徹底している。意見・苦情に関しては、運営推進会議等において話しをしている。</p>	○	<p>利用者の方々の意見・苦情を多く聞くことができる体制を日々考えていきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月1回ほかほかアルバムを作成し、郵送している。また、メール、FAXを用いて、暮らしぶりを紹介し、健康状態等については、電話連絡及び家族の方の訪問時に報告している。職員の異動等についてもアルバムで報告させていただいたりしている。</p>	○	<p>現状の体制に満足することなく、いろいろな体制を考え、より家族の方々に安心して、生活状況等がお知らせできるよう考えていきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見・不満・苦情に関しては、意見箱を設け対応している。現在3年半になるが、意見箱への投書はみられない。訪問時等にできるだけ、コミュニケーションを図り、意見を聞くようにしている。</p>	○	<p>年1回家族会を開き、意見・ご要望等を聞けるよう努力している。少しのことで言っていただけるよう今後ともコミュニケーションを密に図り、体制を構築していきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員とは、密にコミュニケーションを図り、意見や提案を聞くようにしている。</p>	○	<p>今後とも数多くの意見や提案がでる体制を構築していく。ミーティング等日々の状況から、いろいろな意見・提案がでるよう行っていきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状態、業務の状況を密に把握し、必要な時間帯に職員が配置できるよう行っている。</p>	○	<p>職員が多ければ良いケアができるとは思えない。職員一人ひとりの質を高め、状況を密に把握し、安定した勤務体制が継続できるよう支援していきたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>両ユニット、複合施設の兼務もある。まずは、入居者の方々のことを考え、対応している。</p>	○	<p>働きやすい環境は、職員のためでもあり、日頃、信頼、親しんでいる入居者の方々の為でもあります。係わる全ての方々が少しでも満足できるよう考え経営していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて研修を受けられるよう配慮している。当法人職員は、上級の資格を目指し努力しております。半数以上が介護支援専門員、准看護師、介護福祉士の資格を持ち、年々上級の資格者が増えてきております。	○	職員が希望する研修等への参加を支援し、また、全職員が上級の資格を目指していけるような環境づくりを継続していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はできるだけ多く関係施設、地域施設等を訪問し、ネットワークの構築が図れるよう努力している。また、コンサルタントとのつながりもあり、他県施設等とのネットワークも構築している。	○	地域の同業者との交流も年何度か行えている。今後も、交流が密に図られ、意見交換が行え、地域福祉全体のサービスが向上できるよう取り組みたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員にとって働きやすい職場でなければ、入居者の方に良いサービスが行えないと思います。コミュニケーションを密に図り、ストレスが軽減できるよう取り組んでいる。年に何度か親睦会を開催している。	○	働きやすい職場、やりがいのある職場を目指して、今後も環境等の整備を行っていく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の相談、意見、悩み等を積極的に受け入れ、協力医療機関のDrにもお願いし、医療面での悩み、相談も気軽に受けられる体制をとっている。常に職員が向上心を持ち、楽しくモチベーションを高めながら仕事が行えるよう努力している。	○	職員は、より上の資格を目指しがんばっている。実際に介護福祉士、介護支援専門員の有資格者が増えてきている。今後も、モチベーションを高め仕事に取り組めるよう支援していきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用にいたるまでは、何度か訪問、話す機会を設けるようにしています。(受容的な態度で接しています。)	○	現在とおり、訪問する機会、話できる機会を入居されるまでにできるだけ多く設けていきたい。一人で対応せず、できる限り二人以上で対応し、チェックを行いながら対応していく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人との話す機会以上に家族との話し合う機会、説明の機会を多く設けるようにしています。全入居者の方は、家族の方からの相談、依頼であり、当ホームへ入居できなくても相談する機会を多くとれるようにしています。	○	現在とおり、訪問する機会、話できる機会を入居されるまでにできるだけ多く設けていきたい。一人で対応せず、できる限り二人以上で対応し、チェックを行いながら対応していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときには、まず必要なサービスを見極め、家族の方へお話し、場合によっては、居宅介護支援事業所、他施設等への紹介も行うようにしています。また、各種サービス、介護保険上でのサービス等の説明を行ったり、医療が必要な場合には、連携医療機関のDrへ相談し対応しております。	○	他の施設、機関とも連携が図られ、今以上に紹介等がスムーズに行えるようネットワークづくりをしていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の方、関係者の方と事前に密に話し合い、入居者の方が少しでもスムーズにサービスが受けれるよう支援している。お試し入居、同事業所のデイサービスを利用していただきながら、ホームへ入居にいたる場合があります。	○	GHの共用型の認知症デイサービス、短期入所介護等の利用を含め、本人が安心して入居にいたるよう支援していきたい。また、環境づくりについても今後も継続支援していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の方ができることは、できる限り一緒に行い、職員も入居者の方に助けていただきながら、一緒に生活を送るようにしています。入居者の方からは、昔のことわざ等を教えていただいたり、料理の味付けを教わりながら、楽しい時にはともに笑い、悲しい時にはともに泣き、喜怒哀楽を共にしながら、支え合う関係を築けるよう努力しています。	○	入居者の方の能力が発揮できGHの理念でもある「アットホームな生活」が提供でき、家族の一員になれるよう関係を築いていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	開所以来、家族の方の訪問の回数も多く、コミュニケーションを密に図り、GHにお任せでなく、家族の方も協力、支援いただいて入居者の方が地域の一員としてGHで生活が送られるよう支援している。	○	今後とも、家族の方とともに地域の中の一員として、入居者の方々が生活が送れるよう、信頼を深めていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会、訪問の回数は多いが、訪問される期間が少し長くなる場合は、最近の状況を報告し、訪問、面会していただけるようお願いしている。また、電話にて会話が行えるよう支援したり、FAXでのやり取り、はがきのやりとりが行えるよう支援している。	○	今以上、訪問、面会される機会が多くなるように努め、本人と家族の関係がより良くなるよう支援していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当GHはできる限り地域との交流を深め、外出する機会を多くとれるよう支援している。地域の中の一員として、入居後、在宅にいたときとあまり変わらず生活が送れるよう努力している。	○	今までとおり家族の方の理解を深めながら、地域への参加を支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者一人ひとりの性格、状況の把握を行い、入居者の方が、精神的にも身体的にも安定した状態で生活が送れるよう支援し、共に支え合うよう支援している。	○	入居者の方の状況、状況を密に把握し、良好な関係で精神的にも身体的にも安定した生活が送れるよう支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	在宅へ帰られた方、高齢者専用賃貸住宅へ移られた方等においても同施設のデイサービスを利用していたり、訪問したりして良い関係を築けるよう努力している。亡くなられた入居者の家族の方、入院された入居者の方の家族の方とも連絡をとり、良い関係が築いていけるよう努めている。	○	契約終了された入居者の方、家族の方には、年賀状をださせていただいたりしている。今後もGHの活動、行事等の活動の案内を行い、よい関係を維持していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り今まで生活してきた環境に合わせ、生活が送れるよう支援しつつ、生活に生きがい、はりが持てるよう支援しています。たとえば、地域の詩吟の大会があるときには、それに向け練習を行い、参加できるよう支援しています。	○	個人個人生き方、感性、趣味、生活スタイルが異なるため、9人の集団の生活ではありますが、個々に生きがい、やりがいを持ち生活が送れ、QOLの質の向上が図れるよう支援していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の方の個々の生活歴を大切にし、今まで行ってきた日課、趣味等がGHにおいても継続できるよう支援しています。	○	個々の生活歴や馴染みの暮らし方を大切にし、生活を支援しながら、質の高い生活が送れるよう支援したい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護記録にも状態、状況等を密に記入し、申し送りは全職員が共有、認識し、入居者の方一人ひとりの過ごし方、状態等を密に把握できるようにしている。医療面においても看護師を中心に、Drよりの申し送り事項についても共有、理解している。	○	申し送りは、時間をとり行っている。現在一人ひとりの状態、状況について申し送っている。もう少し簡潔に重要事項を申し送れるようよう努力し、ポジティブな面について時間をかけ話して、入居者の方が、より多くできることが増えるような体制を築いていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティング(申し送り)、カンファレンス、職員会議等において密に話し合っている。家族の方へは、訪問時、面会時に密に状況説明をふまえ、話をきくようにしている。	○	本人、家族の方にもカンファレンスに参加していただける体制が行えていないので、少しずつでも体制が構築できるよう行っていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた場合、入退院後、大幅に状況の変化がみられた時などは、介護計画を見直し、現状に即した介護計画が作成できるよう努力している。	○	本人、家族の意見も大いに反映できた介護計画を作成していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を個別記録にわかりやすく記入し、申し送り帳にも具体的内容を記載し、職員全員が情報を共有している。また、医療面でのDrよりの指示も密に記載し、全ての記録を参考にして介護計画見直しを行うようにしている。	○	現在の記録に満足することなく、わかりやすく、簡潔に記録でき、介護計画の見直し等が行えるよう考えていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	複合施設と併設しており、デイサービスの休み、営業時間後に入浴を活用したり、マッサージ機、カラオケ等を活用している。また、お互いが交流できるよう支援している。	○	同法人の事業全てを活用し、入居者の方の生活の質が向上できるようサービスを向上させたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、ボランティアの方々の訪問も多くしていただいている。年2回避難訓練を行い、消防署の協力、指導をいただいている。また、徳島大学医学部生の研修の場として支援している。	○	今後も各種諸機関と連携を密に行える体制を継続、構築していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーやサービス事業者との連携を密に図り、GHのみのサービスにとどまらず、その他のサービス、資源も活用できるよう支援している。	○	他事業所、関係諸機関との連携を密に図り、他の資源もおおいに活用していけるようネットワークの構築に努めていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議時においても地域包括支援センターの方と意見の交換を行っている。また、何か生じたときには、電話連絡したり、訪問したりしている。	○	運営推進会議以外に当GHの状況を報告する場がない。今後は、地域包括支援センターと協働して支援できるよう努めたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんど毎日、連携医療機関のDrがこられ、入居者の状況等を説明しながら、コミュニケーションを図っている。週2回の往診により健康管理を行い、他大きい病院受診時にもDrに紹介状をいただき、安心して受診できる体制をとっている。	○	認知症の方の訴えはさまざまであり、本当の訴え、症状を把握し、Drへ状態説明が行え、適切な医療が受けただけよう支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関のDrへ相談、連絡を密に行い支援している。医療面においては密に連携が図られ、診断や治療が受けられるよう支援している。	○	職員全員が専門知識を高め、Drへ密に連絡、報告が行える体制を図り、より一層診断や治療がスムーズに受けたいだけのようにしていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	法人にも2名の看護師が勤務しており、また個人委託にて2名の看護師と契約しており、健康面の管理、相談は密に行いながら支援している。	○	介護士も研修等により医療面の勉強を行い、Dr. Nsを中心に健康管理が行えるようにしていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者の方が、病院へ入院される際には、Dr紹介状、グループホーム内の記録等を用い、管理者及びNsが病院へ付き添い、病院関係者へ密に情報の提供が行えるようにしている。入院中は、1週間に1度は病院へ出向き、状況等の把握と、入居者の方に安心していただけるコミュニケーションを図っている。退院に関しては、連携医療機関のDrと主治医、家族、GH側で相談し、早期に退院し以前の生活環境で生活が送れるよう支援している。	○	地域的に入院される医療機関は限られてきている。医療機関と密に連携を図ることにより、早期にスムーズに退院し、情報が正確に共有できるよう支援していきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の指針を定め同意書をいただいている。終末期に関しては、医療、福祉との連携が必要である。Dr、GH、家族ともに全員が同じ情報を共有し、繰り返し話し合いながら支援している。	○	重度化した場合、特に終末期に関しての研修等が必要である。Drを中心に研修を行い、終末期のケアが密に図れるようにしたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	GH開設以来3年半が経過する。入居者の方もADLは低下傾向であり、そのつどカンファレンス等において話し合っている。できること、できないことに関しては、医療の連携が密に行っており、状況により支援してきている。	○	医療面と介護面両方の協力が必要である。重度化、終末期においてもできる限りケアが行えるよう、密に話し合い、研修等を行い支援していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	何名かの方が在宅復帰、別福祉施設、当高齢者専用賃貸住宅へ移られた。その都度、情報を正確にて提供し、入居者の方が環境変化に戸惑わないよう、スムーズに他のサービスが受けられるよう支援している。	○	個々によって退所する条件、移られる条件が違ってくる。いかに戸惑いなくスムーズに退所すること、移ることができるかを考え、各関係者と話す時間を多くとりすすめていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の方は人生の先輩であり、自尊心を尊重しプライバシーに配慮しながら支援している。親しい仲間にも礼儀ありであるが、時々親しすぎる声かけがみられている。	○ 忙しいときなど、また強い言葉での声かけ等がみられるときがある。職員同士が注意できる関係をより構築していきたい。声かけ、ケアのチェック体制の整備を図りたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の方に合わせて声かけを行い、個々の状況を把握し本人の意思決定を尊重しつつその人らしい生活が送れるよう支援している。	○ 自宅とは違いGHには集団生活の要素もみられる。できる限りその人がその人らしい生活が送れるよう、職員全員で取り組んでいきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活ペースに合わせて支援できるよう努力している。その人がその人らしい生活が送れるよう、コミュニケーションを密に図りながら支援している。どうしても人員的に困難なときはある。本人が納得できるよう声かけを行っている。	○ その人がその人らしく生活が送れるよう、体制面、環境面の整備を随時図っていく。(まず把握することが大事である)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	化粧される方には継続して行えるよう支援し、理美容に関しても、行き慣れた理美容店へ行かれるよう支援しています。外出が困難な方などは、出張してきていただいています。	○ 現在女性の入居者の方で、化粧をされている方は少ないのが現状です。昔を思い出し、化粧をしていただく機会を設けていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては、皮むき、刻む等を行っていただいたり、配膳、食器洗いなどを積極的に行っていただいています。食事は、職員も同じものを一緒に和気藹々と行っています。	○ 昨年複合施設になり、調理する機会が少なくなっている。おやつを一緒につくる機会を多くしていきたい。ADL低下により外食の機会も少なくなっていますが、少しでも多く外で食事する機会も設けていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒については、管理を行いながら楽しんでいただいています。お買い物にも職員が付き添い楽しんでいますが、間食の量、賞味期限等の把握のため、密に管理を行っています。	○ 職員の配置の関係もあり、希望の日、時間に対応できないことも多々あります。入居者の方には、説明を行い納得していただいて日にち、時間の調整を図り支援しています。これからもできる限り、安全、管理を行いながら日常的に楽しめることが多くなるよう支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々にあった排泄ケアを行っています。できる限りトイレでの排泄が行え、オムツ等が改善できるよう努めています。	○	日中の排泄ケアの取り組みは密に行っていますが、夜間の課題が多いです。夜間帯については、安眠も考慮しながら、個々に合った排泄ケアを考えていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は日にちを決めず毎日行っています。身体の状態を観ながら、できるだけ個々の希望に添って入浴できるよう支援しています。車椅子の方などは、デイサービス終了後、機械浴で入浴を安心して楽しめるよう取り組んでいます。自分で意思決定できない方、入浴嫌いな方も入浴回数の管理を行い、コミュニケーションを図りながら入浴できるよう支援しています。	○	現在入浴の順番も決めておらず、そのときの声かけにより入浴していただいています。デイサービスには大きな入浴環境があり、デイサービスが休みのときなどは、利用していきたいと思います。また、近くには温泉施設があり、利用を行いたいと考えています。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	様子観察は密に行い、身体面、静止面での変化はないか確認し、休息をされるよう支援している。日中は活動を促し、一日の生活リズムづくりをして夜間安眠できるよう支援している。昼夜逆転にならないよう配慮しながら、日中の休息时间も考え支援しています。	○	その方の生活リズムを大事にしつつ、より快適に生活が送れるよう、様子観察を通して職員全員で取り組んでいきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居前のアセスメント、本人、家族の方から生活歴や趣味、楽しみ等を聞き、また、得意分野、不得意な分野の様子観察にて把握し、生きがいのある生活が送れるよう支援しています。	○	本人の希望に添ったサービス、ケアが提供でき、やりがい、生きがい、張り合いが持てる生活が送れているか随時観察し、QOLの質の向上ができるよう支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方の承諾を得て、お金を所持されている方もおられます。できるだけ把握を行い、レシートを残し家族の方へお渡ししています。また、ホームで立て替え払いを行い、請求時にお支払いをお願いしています。	○	本人が持参されている場合、確実な管理ができていない。家族の方は、承諾済みだが、職員がいないときに、受け渡しをされている様子もみられる。正確な管理が行えるよう支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	当GHでは、地域との関わり、外出等を積極的に進めています。GH前は公園になっており、気候のよい日は、散歩を日課にしております。冬場、夏場はどうしても外出の機会は少なくなっています。	○	地域の行事等への参加は、現状とおり事故等には細心の注意を払い、積極的に支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事において、花見、いちご狩り、展覧会、個別に買い物、散髪等へ外出できるよう支援している。祭り等大勢が外出するときには、職員全員が協力をしている。	○	日頃のコミュニケーションにより、希望や思いを把握し、個々に外出等の支援が密に行えるようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	GHの電話を使用し、家族と電話で話しが行えるように支援したり、FAXでのやり取りが行えるように支援している。	○	いろいろな情報システムを利用して、家族の方ともより一層コミュニケーションが図れるように支援していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	夜間の施錠以外は、玄関は鍵を掛けていない。気軽に訪問していただけるよう環境には配慮している。また、隣接してデイサービスがあり、話に来られたりしている。職員は、地域で顔なじみの方、家族、知人等へ会ったときには、気軽に訪問していただけるよう声かけをしている。	○	入居者の皆様は、知人、家族等の訪問があった時には、いきいきとした表情をしておられます。これからも、気軽に訪問していただけるよう環境面での配慮と、体制をより向上させていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束事項は玄関に掲示し、よく話題になるのが事故防止委員会時に、対応策として身体拘束にはなっていないかなど、職員が確かめ、勉強しながら行っている。	○	専門的な研修へできるだけ多くの職員が参加したり、GHにおいて研修を行い、知識及び意識を高めていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則的に居室の施錠は行っていない。入居者の方が夜間など希望されるときには、巡回時はマスターキーで開錠することを説明している。また、玄関も夜間9時～朝7時までは施錠している。	○	GHにおいて、入居者の方が夜間も施錠を希望されず、安心して生活が送れるよう支援したい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中必ずユニットに1名はいるようにしている。職員同士がコミュニケーションを図り、持ち場を離れるときには、戻ってきたときには、声かけを行い所在を明確にしている。日中玄関は、開錠しているため、センサーチャイムにて、反応時には必ず確認を行い離棟等がないよう安全面で配慮を行っている。	○	日々、入居者の方のADLの状況を把握し、職員配置、環境面での改善等を考えながら、プライバシーに配慮しながら安全に生活が送れる体制を整備したい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の方にとって危険を及ぼす物、注意が必要なものにおいては、カンファレンス、ミーティング、事故防止委員会等で話し合い、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ対応をしている。	○	洗剤、薬剤等については、危険がないよう管理し、刃物等についても、入居者の状態を見極め管理を行っている。日々、危険のおそれのあるもの等については、できる限り自然に安全に管理を行えるよう支援していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	火災に関しては、年2回訓練を行い、それぞれ事故においては、どのように対応するかマニュアルを作成している。また、事故防止委員会を早急に開催し、再発防止に努めている。	○	今現在あるマニュアルを見直しながら、随時、最善の対策方法が行えるよう行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルは整備している。緊急連絡網、Drへの緊急連絡体制を行い、常時管理者は専用の電話を持ち対応できるようにしている。また、管理者が不在時には、Nsへ連絡が行え、緊急時に対応できるようにしている。	○	定期的に研修を開催し、訓練等を行っていききたい。医療面での緊急体制は整備されており、今後職員の緊急時の対応について向上できるようにしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練、避難訓練は年2回行っており、職員、近隣の方の協力は考えられるが、地震、津波などの災害時には、GH勤務者が対応しなければならない。地震津波の防災計画は整備しているが、いかに数少ない職員で、避難が行えるかが課題である。隣接して複合施設の2F、屋上に避難場所を設けている。	○	地震、津波の対応が必要である。運営推進会議でも取り上げ話しをさせていただいたが、具体的な避難できる方法を考えていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日頃から家族の方との関係を親密にし、起こり得るリスク(事故)、身体的(病気)な症状を職員全員が把握し、家族の方に対応策、連絡、相談を密に行っている。	○	当GHで一番多い事故は転倒であり、また入院についても骨折が多い状況である。いかに抑圧感、身体拘束に近いかたちでなく、防止できるかの検討を個々に応じて日々検討を行っていききたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	医療面での管理はDr中心に管理を行っているが変化、異常に気づくのは、一番近くにいる介護職員である。様子観察を密に行い観察眼を養いながら、緊急の早期発見に努め、Dr、Nsへ連絡し、職員が情報の共有が図れるよう支援している。	○	職員の観察眼も養われてきている。病状によりどのような症状が起こり得るのかを勉強しながら、早期発見につなげ、的確にDrへ連絡、報告が行えるようにしていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬が処方されたときには、Nsより説明、申し送りに記載し、全員が共有できるようにしている。また、副作用、注意点についてもDrより指示をいただくようにしている。	○	薬の目的や副作用、用法、用量について、正確に理解していると思えない。Drの指示のとおり服薬支援している。誤薬などもみられることがあり、対応は速やかにしている。(Dr連絡、指示)、人間であるので間違いは想定できる。防止と後処理を確実にやるよう今以上確実性の向上を図りたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分量、適度な運動など支援を行い、自然排便を促しています。牛乳に関しては、ほとんど飲用されています。下剤、緩下剤においてもDr指示を仰ぎNsを中心に管理を行っています。	○	医療的な分野からどうしても薬の服用が必要な方がおられます。状態を密に観察し、医療との連携を密に図りながらケアの継続を行っていききたい。適度な運動、水分補給の支援を行いながら自然に排泄が行えるようにしていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、食後の口腔ケアは行っています。個人の能力に応じてケアをしていますが、自力行える方もチェックを行うようにしています。定期的に消毒洗浄を行っています。	○	口腔清潔が図れるよう継続して支援していく。義歯の状態、口腔内の状態も密にチェックしながら、異常の早期発見に努めています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量に関しては、密にチェックし記録しています。水分についてもお茶ばかりでなく、牛乳、ポカリスエット、アクエリアス等飲みやすいものを提供し、十分に水分量が確保できるよう支援しています。	○	食べられない物、アレルギーのある方は、代替食で提供しています。食事量が少ない方には、職員が話し合い、食べやすい形態、代替食を考えDrの指示を仰ぎながら支援しています。個別に取り組み、病院でほとんど食べられなかった方が、自力で摂取されるようになったことの取り組みを運営推進会議において発表させていただいたりしています。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防は徹底しています。Drより指示、指導いただき文章にして全員が周知するようにしています。また、Drによる研修等も行い、知識を高め感染症予防を行っています。(マニュアルは整備しております。)	○	感染症の状態に応じて大まかなマニュアルではなく、その都度Drを中心に対応、予防策を考えています。これからも内部、外部研修を充実させ知識を向上させていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルを作成し、日々のチェック項目に従い管理を行っています。衛生管理を心がけ、賞味期限のチェックを行っています。入居者の方が個別でもたれている食べ物も密に賞味期限の管理を行うようにしています。	○	管理体制を徹底していきたい。食中毒になりやすい時期には、より徹底していきたい。(衛生管理、食材の管理)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	当GHは、訪問の方が多く、家族や知人、親戚の方々が気軽に訪問していただいている。開放感があり、いつでも気軽に訪問しやすい環境を心がけている。	○	正月には門松、クリスマスにはクリスマスツリー、四季折々の花々で開放感がある訪問しやすい工夫をしている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感、季節感が感じられるよう、植物、貼り絵、写真などを工夫して心地よく過ごせるよう工夫している。訪問の方からは、いつもきれいで気持ちいいとお言葉をいただいています。	○	随時、照明、破損箇所のチェックを行い、過ごしやすく安全空間が提供できるよう支援していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には掘りごたつ、ソファがあり、居室も自由に出入りしながら、思い思いに過ごせるよう環境整備を図っている。	○	現在、中庭のウッドデッキを広くする予定でいます。中庭に出て外の空気を感じれるよう環境整備を図る予定です。(ADLの低下もあり、スムーズに外へ行けない方への取り組み)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた物や親しみのあるものを持って来ていただくようお願いしております。日々過ごしやすい環境、安全面での配慮をしながら支援しています。	○	本人が安心して、過ごしやすい空間が提供できるよう随時考え支援していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室温調整、冬場は加湿器を設置し、過ごしやすい環境を提供しています。	○	健康面に配慮をしながら、過ごしやすい空間を提供できるよう今後も支援していく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は、バリアフリーでほとんど段差がない。各居室においても安全に自立した生活が行えるよう支援している。	○	環境面での改善点を密に把握し、早期に改善が図られ、個々に応じた対応が行えるよう今後も支援していく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	声かけ、様子観察、コミュニケーションを密に図り、その人の能力を最大限引き出し、自立して生活ができるよう支援している。	○	カンファレンス、ミーティングにおいては、ネガティブな意見が多い。ポジティブな面に多く目を向け、できることがより多くなるよう支援していきたい。(意見においては、危険なことなどが多く、こんなことができました等の意見、申し送りが少ない)
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前は公園になっており、散歩コースになっている。また、中庭があり四季折々の花や空間を楽しんでいます。	○	現在、中庭にスムーズに出ることが難しく、ADLの低下もあり外出の機会もやや少なくなっている。外の空気、散歩が気軽に行えるよう、現在、改造予定中である。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当GHの理念は「温もりとやすらぎのあるアットホームな生活を支援いたします。」であり、入居者の方々は地域の一員であり、地域行事等への参加、外出など地域の方々と密に関係が継続できるよう支援している。特色として医療連携機関である折野胃腸科内科と密に連携を図り、健康管理を行っている。できる限り安定され、希望される方は、GHにおいて看取り、週末期が向けられるよう支援している。